
～ 碎牙 ～

武泰斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

く 碎牙 く

【Nコード】

N 8 4 4 4 Y

【作者名】

武泰斗

【あらすじ】

魔法と冒険の時代、大国アトモスにある「王立第一魔法学園」でとある少年と少女の再会から物語は動き出す。

人物紹介（前書き）

人物紹介です。随時更新予定

人物紹介

●ゼノ・アルフレイン

物語の主人公

髪の色：灰色

瞳の色：青

適正属性：無し

両親が盗みを行って失踪したため、伯父であるジンに引き取られた。

●サンドラ・ルミール

ヒロイン

髪の色：黒

瞳の色：黒

適正属性：水、樹、雷 ゼノの幼なじみで彼と再会を誓った女の子、成績優秀で魔法の才能もあり、そのうえ美人。三種類の適正属性をもつ。「嵐の麗人」と呼ばれている。

●ジン・アルフレイン

髪の色：茶色

瞳の色：青

適正属性：火、水

ゼノの育ての親的存在、元冒険者で剣術と攻撃魔法が得意、現在はクローゼ村で狩猟をしている。

「おじさん」と呼ばれるのが嫌い。たとえ甥っ子にあたるゼノに伯父さんと呼ばれるのも嫌。ちなみに39歳……おじさんじゃん親と村に捨てられたゼノを引き取ったが、それ以来娘がゼノにベッタリなのが悩み

プロローグ

「本当に行っちゃうの？」

少女は泣きそうな眼で目の前の少年にたずねた。

「仕方ないよ、俺みたいな役立たずを引き取ってくれる人なんて他にいないからね……」

少年は少し困った顔をしながらそう答えた。

「違うよ！ゼノは役立たずなんかじゃない！村の皆がゼノの良さを理解してないだけだよ！」

「俺の良さ？そんなの存在しないよ、頭も悪いし魔法の才能も無いし、それに何より……」

少年――ゼノは俯きながら呟いた

「あんな最低な親達の息子何だから……」

「……でもそれはゼノのせいなんかじゃ……」

少女は、いや村人皆が知っていた、ゼノの両親が先日村の倉から金品を持ち出して行方を眩ませたことを……たった一人、十歳になったばかりのゼノを残して

「それに村の皆が言ってるよ、『お前みたいな落ちこぼれが村に居座ること自体間違いだ』って」

ゼノには魔法の才能が無かった、それどころか、ひとりに最低一つはあるはずの魔法の『適正属性』すら無いため村の同年代の子供達

からいじめを受けていた、また、彼の両親は息子にほとんど興味を示さず彼とまともに会話を交わすことすら無かった。

ただ一人、目の前の幼なじみだけが彼の唯一の味方だった。

「でもゼノが居なくなったら、わたし…」

少女は涙を流しながら力無く呟いた

「大丈夫だよ。サラには俺と違って魔法の才能があるし、何より優しい家族がいるじゃないか。」

「でも！」

「それになにも一生の別れ何かじゃないんだから」

ゼノは顔をあげながら少女――サラに微笑んだ

「俺さ、向こうに着いたら剣術を習ってみることにしたんだ」

「？」

「だからさ次に会ったときは楽しみにしててよ！ね」

「グス……………わかった。でも約束して」

サラは涙を拭いながら言った

「絶対に…絶対にいつかわたしに会いに来て。」

ゼノは笑顔でそれに頷いた。

「小僧、そろそろ時間だ。」

「…はい、わかりました。それじゃまたねサラ…」

「またねゼノ…」

ゼノはサラと最後に微笑みながら別れの挨拶を交わし、魔動車に乗り込んだ

「挨拶はすんだか？」

運転席で男が尋ねた

「うん」

「じゃあ行くぞ」

走り去っていく魔動車をサラはいつまでも眺めていた

「ねえおじさん」「おじさんじゃねえ！お兄さんだ！」「……………ゴメン。

お兄さん」

「なんだ？」

「向こうには何日ぐらいに着くの？」

「…だいたい三日ぐらいだ。」

「そっか、遠いね…」

「だからよお、いつまでもそんなひでえ顔されたらこっちが参っちゃうからよ、いまのうちに泣いておけ。」

「!.....グス、うわあああああああ!!!」

ゼノの悲鳴のような泣き声が草原に響き渡った。

1話 五年後（前書き）

初投稿の作品なので、へたくそな文ですがよろしくお願いします。

1話 五年後

Side:ゼノ

「うん…。」

朝か、なんだか懐かしい夢を見た気がする。故郷の「ハング村」を旅立ったときの夢か…

もうあの日から五年も経過したのか、はやいもんだ、あれっきり幼なじみのサンドラとは一度も会ってない。

「まあ、俺のことなんてもう忘れているかもな…。」
それに気まずいんだよなあ、あのときの約束破っちゃったし

「ゼノ……！朝ご飯できたからそろそろ起きなさい」

下から母さんの声が聞こえた、そろそろ起きよう

リビングにおりたら見知った茶髪の男性が声をかけてきた

「おう！起きたかゼノ」

「おはようおじ「ああん！」…父さん」

この人は「ジン・アルフレイン」五年前に俺を唯一引き取ってくれた人で、恩人であり育ての親でありそして、師匠でもある

ちなみに俺を捨てた父親の弟だから俺の伯父なんだけど「おじさん」と呼ぶとさつきみたいにキレル……今年で39歳のくせに

「まったく、最初からそう呼べばいいんだよ」
「ははは…」

「おはようゼノ」
キッチンから女性の声が聞こえる

「おはよう母さん」

この人は「ミランダ・アルフレイン」ジンの奥さんで俺の育ての親。
よそ者の俺を快く受け入れてくれた頭が上がない人の一人だ。

「まったく、オレのことは今だにおじさんのくせにミランダには母
さんかよ」

「いや、でも父さんって呼ぶとたまに怒るじゃん」

「オレが？んなことあない。だからちゃんと父さんと呼べ。」

よくいうよ…まあいいや早く席につこう。と思ったら小さめの影が
背後から突貫してきた。

「おはよう！ゼノにいい！」
「グボア」

やべ、変な声でた…

「おはよう…、朝から元気だねミリア」

この少女の名前は「ミリア・アルフレイン」元々この家の娘で今年で12歳、五年前俺がこの家に引き取られて以来俺のこと兄としてつてくれている

俺にとっては可愛い妹だ。…元気すぎるけどな、まあいいけど

「え〜と、ところでミリア…」

「なあ〜に？」

「そろそろ離れ「いや！」…いやそう言わずに」

！！ 前方から凄まじい殺気が！

「おい小僧、齒あ食いしばれ。」

「いや、あのと、父さん？」

「誰が！『義父』さんだ！」

「ちよっ！さっき自分で呼べって…！」

「問答無よ「ゴス！」」「ドサッ

「さあご飯にするわよ、ミリア、そろそろお兄ちゃんを離してあげなさい。」

「はあ〜い」

母さんの手には角に血糊が付いたまな板がぶらさがってた…まあいいけど…

「それにしても二人共今日から王都に行っちゃうのか……寂しくなるわね。」

「うん……俺も今回ようやく編入試験に受かったからね。」

そうだった、今日から王都にある魔法を学ぶための学校「王立第一魔法学園」に通うために王都に旅立つんだった。

魔法とは、体内に眠る魔力を用いて発動することができる術のこと
で魔術ともいう

そして魔力とは、生物が持っている生命エネルギーのことで、
これが多いほど強力な魔法が使いやすいのである。ちなみに魔力の総量
は修行することによって増加させることができる

閑話休題

もちろん魔法の才能が乏しい俺にも魔力は存在するため、簡単な魔法
なら使うことができる。はずだ。

ちなみに試験には今までに3回落ちました……

「そつえば学年はどうなるの？まさかふたりとも同じ学年？」

「違うよお母さん、あたしが中等部の一年生でゼノにいが高等部の
一年生だから別々だよ。……残念ながらね」

「？最後ボソボソと何か言ったか？」

「べ、べツになんにも！」

あきらかに怪しいな…。まあいいけど

「あらそうなの。でもいきなり高等部から大丈夫なのゼノ？」

「心配いらないよ。むしろ高等部から受けに来る人だっているぐらいだし。」

「まあそれにオレが五年間も鍛えてやったしな♪ガツハツハ！」
と父さんが笑いながら続けた

ていうか父さん…いつの間にリカバリーしたんだ？

「でもゼノには勉強できないからあたし心配だなあ…。」

いや妹よ、ハッキリと言い過ぎじゃね

ていうか妹に勉強の心配されるって……………まあべつに…いやよくないか。

「まあ勉強できないのは認めるけどその分は実践科目で補うよ。」

「でもゼノには魔法も苦手じゃん！」

…なんだろう、妹は俺のことが嫌いなんだろうか？

「こちら、ミアそのくらいに下さい。お兄ちゃんが困ってるでしょう。」と母さんが割って入ってきた

ていうか母さん、あなたが心配とか言い出したのが原因なんだけど…。

俺は軽いため息を吐きながら荷物をまとめて部屋に戻った。

1話 五年後（後書き）

ご意見、ご感想をお待ちしています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8444y/>

～ 碎牙 ～

2011年11月25日14時52分発行